足立区環境基金審査会

議事録

令和７年７月３０日

【環境基金審査会】会議概要

会　議　名	足立区環境基金審査会				
事　務　局	環境部長・會田 康之、環境政策課長・吉尾 文彦				
開催年月日	令和７年７月３０日（水）				
開催時間	９時００分から１１時３０分まで				
開催場所	足立区役所　１２０２会議室				
出　席　者 （※オンライン参加）	倉阪 秀史	町田 怜子	竹内 彩乃	佐々木 まさひこ	工藤 てつや
	佐藤 あい	浅賀 智成	本間 達彦	中村 優斗	
欠　席　者	なし				
会議次第	別紙のとおり				
資　　料	足立区環境基金審査会資料				
そ　の　他					

（吉尾文彦　環境政策課長）

定刻となりましたので、ただいまから足立区環境基金審査会を開催いたします。

私は環境政策課長の吉尾と申します。よろしくお願いいたします

今回、委員の改選がございましたので、会長が決まるまでの間、事務局の環境政策課長吉尾が進行させていただきます。どうぞよろしくお願いします。

環境基金審査会では、ペーパーレス化を目的とし、配布資料をタブレットで共有しております。

お一人につき２台机上に置かせていただいております。１台は資料確認用として、もう１台のタブレットは、評価入力用としてお使いください。ご不明な点がございましたら、職員が控えておりますのでお声がけください。

はじめに本日の出席委員数を報告いたします。

委員定数９名、出席委員数９名ですので、本日の環境審査会は成立していることをご報告いたします。

それでは、次第の１、委嘱状の交付に移ります。

前回の任期から引き続き務めてくださる委員もいらっしゃいますが、多くの方は任期満了に伴う改選で、今回が初めての審査会となります。

委嘱状については、４月１日付で委嘱させていただいている学識委員、区民委員の方へは事前に郵送させていただいております。

また、６月に推薦いただいた区議会推薦の委員の方には本日机上に配布させていただいております。

新たな体制になりましたので、委員の皆様を名簿順に私より紹介させていただきます。

（委員氏名の読み上げ）

以上、９名でございます。みなさまどうぞよろしくお願いします。

続いて次第の２、会議公開規定の取り扱いについてですが、足立区環境基本条例の規定により、「審査会の会議は公開とするが、議決があったときは、非公開とすることができる。」となっております。

前回までの審査会では、申請内容を評価、審査することは、公開になじまないことや、公開とすることで申請者が傍聴する可能性も出てきてしまうことから、審査に関する部分は非公開とすることを決定しております。

今回は昨年度の活動者からの実績報告と、申請があった８団体の書類審査となりますので、前回までと同様とする場合、前年度活動者の報告と質疑応答は公開とし、審査部分はすべて非公開とすることとなります。

ご意見などございますか。

（異議なし）

それでは、審査の部分のみ非公開とすることとします。

続いて、資料の確認です。

事前にお送りした資料、またはタブレットに共有している資料として、本日の次第、その裏面に委員名簿、令和６年度一般助成一覧、環境基金助成申請一覧、評価の考え方と採択の基準案、評価項目シート、申請書類８団体分、がございます。

次に本日の進め方ですが、これから

選任します会長に進行いただきますが、ご意見やご質問がある場合には、挙手をお願いします。

会長の指名により、お一人ずつご意見・ご質問等をお願いします。その後、委員からのご意見・ご質問がそろったところで、会長の進行で回答者からお答えいたします。

進め方の説明は以上でございます。

続きまして、次第の４、会長の選任に進みたいと思います。

次第の裏面「足立区環境基金審査会規則（抜粋）」をご覧ください。環境基金審査会規則第３条第２項に記載のとおり、会長は審査会を代表し、会務を総理することが定められております。

会長の選任は、前条第１項第３号、すなわち学識経験者の委員の中から委員の互選により定めることとなっています。

学識経験者の委員は、倉阪委員、町田委員、竹内委員のお三方ですが、いかがでしょうか。

（町田怜子　委員）

私は、倉阪委員に会長をお願いしたいと思います。

（吉尾文彦　環境政策課長）

ただいま、倉阪委員のご推薦がありましたが、委員の皆様いかがでしょうか。

（異議なし）

それでは、倉阪委員を会長に選任いたしましたので、よろしくお願いいたします。倉阪会長、一言ご挨拶をお願いします。

（倉阪秀史　会長）

はい。会長として適切に進めさせていただきます。皆様よろしくお願いいたします。

（吉尾文彦　環境政策課長）

ありがとうございます。会長が決定しましたので、この後の進行は、倉阪会長にお願いいたします。

（倉阪秀史　会長）

それでは、皆様改めましてよろしくお願いします。

続いて次第の５、副会長の選任に進みます。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する方でございます。

委員の中から会長が指名することが規定されておりますので、私から指名させていただきます。

町田委員に副会長をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

（町田怜子　委員）

はい。よろしくお願いします。

（倉阪秀史　会長）

どうぞよろしくお願いします。

続きまして、次第の６、本日の議事録署名人の指名です。それでは、本日の議事録署名人につきましては、会場にお越しいただいている佐々木委員と工藤委員を指名いたします。

よろしくお願いします。

それでは次第の７、令和６年度足立区環境基金一般助成実績報告に進みます。

事務局は準備をお願いします。

（吉尾文彦　環境政策課長）

ただいまから令和６年度に環境基金助成を受けて活動した一般助成の２件

について、申請者より活動の報告をしていただきます。

配布資料の「令和６年度一般助成一覧」をご覧ください。

おおむね７分程度の実績報告のあと、３分程度時間を取っておりますので、ご質問や今後の活動に対して期待する点などのご意見をいただきたいと思います。

ご発言したい方は、挙手でお知らせください。会長からのご指名後、発言をお願いします。

なお、それぞれの実績報告を共有させていただいておりますので、ご覧いただきながらお待ちください。

最初の報告者の方にご入場いただきます。

＜報告者入室＞

それでは、準備が整いましたので、進行を会長にお願いいたします。

（倉阪秀史　会長）

それでは、１件目の報告を７分間でお願いします。終了１分前と終了のタイミングで事務局よりアナウンスいたします。よろしくお願いします。

（Adachi Plastic Upcycle　長谷川氏）

Adachi Plastic Upcycle と申します。よろしくお願いします。

私たちは廃プラスチックのアップサイクルと、地域資源循環を目的としたプロジェクトを進めてきました。

本日はその実績と今後の展望についてご報告させていただきます。

まずは活動概要です。

足立区のコーヒーショップ八重洲コーヒーに集まったメンバーと、再生プラスチックで植物の鉢を作れないかという何気ない会話からこの活動が始まりました。

その後、メンバーの紹介で Precious Plastic という世界的な活動を知り、地域で出るプラスチックごみを地域の中でクリエイティブに再生し、循環型社会を目指すために、Adachi Plastic Upcycle を立ち上げました。

以前までの活動では、ペットボトルキャプを粉砕・溶解し、コースターなどの簡単な製品へ作り変える工程を実現しました。

その後も継続的にワークショップを開催し、より見栄えがよく、実用性の高い製品になるようアップサイクルを続けてきました。

この取り組みを通じて、地域住民に体験の場を提供するとともに、プラスチックが環境に及ぼす影響を説明し、アップサイクルの可能性を広く伝えることで、若年層の環境意識の向上を目指して活動してきました。

今回の活動では、射出成型機の購入、製品の金型制作、キャップの回収、ワークショップの開催などこれらの活動の基盤づくりを行いました。

続いて活動実績です。

フェーズ１では、射出成型機を導入し、試作体制を整備しました。

機械の真ん中にプラスチックを流し、金型を設置して射出します。

こちらは防犯防災ホイッスルの金型です。１回に２セット作ることができます。

防犯防災ホイッスルは地域・教育イベントで活用できると考えております。

この導入により、廃プラスチックから製品を生み出す基盤づくりができ、今後の活動につながる成果となりました。

こちらがホイッスルです。そして、こちらは植物鉢の試作です。

東京芸大の学生と一緒に制作しましたが、植物鉢のデザインは課題が多く、今期の制作は見送りましたが、開発を進めていく基盤が整いました。

フェーズ２では、地域への周知と啓発を強化しました。八重洲コーヒーで６回のワークショップを開催し、廃プラスチックを使用した製品づくりを体験していただきました。

廃プラスチックの回収は現在も継続して行っています。

ＳＮＳやスポーツチームと連携した周知啓発活動の実施や、大学で開催するイベントに出展し、地域の認知を高めました。

フェーズ３では、福祉施設との連携に向けた準備を進めてきました。

あいのわ福祉会様と協議を続けており、本格的な委託作業は次年度にスタートさせる予定です。

次に、広がりと新展開です。

商店街ドックフェスでは、ホイッスル約３００個を採用していただきました。

また、漫画家インフルエンサーとのコラボや、銀行のノベルティを制作させていただくことになりました。

さらに、グッドデザイン賞の受賞歴のあるプロダクトデザイナーと協力し、製品開発だけでなく、地域に集う循環型システム全体で、グッドデザイン賞を目指しています。

夏休みの小学生向けのワークショップも継続的に実施していきます。

次に、課題と今後の展望です。

課題は植物鉢のデザインの再考、福祉施設への作業委託の本格稼働です。

今後の展望としては、スポーツ大会のメダルやトロフィーの制作、近隣製作所との連携強化、廃プラスチックの地域循環型モデルの確立です。

最後です。

私たちは地域と福祉、そして環境をつなぐ仕組みで廃プラスチックに価値を加え、未来をデザインすることを目指し、今後も歩み続けます。ご支援心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

（倉阪秀史　会長）

ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告について、ご意見、ご質問などがございましたら挙手をお願いします。

佐々木委員お願いします。

（佐々木まさひこ　委員）

はい。植物鉢が一旦保留になった理由について教えてください。

（Adachi Plastic Upcycle　長谷川氏）

はい。なるべくコストをかけずに大きなものを製作するとなると、部品を組み合わせてつくる形になります。

今回はレジンの３Ｄプリンターで製作しましたが、組み合わせる部分がうまくいきませんでした。

また、学生との連携も課題として挙げられます。

（佐々木まさひこ　委員）

ありがとうございます。

もう一点は、夏休みの小学生向けワークショップは、大体どのくらいの人数が集まりますか。

（Adachi Plastic Upcycle　長谷川氏）

今回は１回５名のワークショップを２回行います。

（佐々木まさひこ　委員）

ありがとうございます。

（倉阪秀史　会長）

他にある方はいますか。

浅賀委員お願いします。

（浅賀智成　委員）

２点質問させていただきます。

１点目は、先ほどコスト面のお話がありましたが、ホイッスルや植物鉢を作るにあたりまして、一つにどのくらいのコストがかかるのかということです。

もう一つは区内の小学校向けの講演の予定について教えてください。

（Adachi Plastic Upcycle　長谷川氏）

コストについては、金型は大きさによって材料費が変わるため一概には言えませんが、このホイッスルは３０万～４０万円かかりました。

教育施設でのワークショップは、今後も行う予定でいます。

（浅賀智成　委員）

ありがとうございます。

（倉阪秀史　会長）

他にある方はいますか。

佐藤委員お願いします。

（佐藤あい　委員）

ありがとうございます。

一点伺わせいただきます。今後の課題というところで、福祉施設との作業委託体制の構築という点について、次年度以降に延期とありますが、どういった点が課題だったのか詳細を伺いたいです。

（Adachi Plastic Upcycle　長谷川氏）

はい。ペットボトルキャップの回収をお願いするとなると、相当数集まってくるため、まず我々がいつ、何を、どのくらい制作するといったシステムを作る必要がありました。

そういった点で、プロダクトデザイナーに入っていただいて、供給先やお仕事の流れを確立し、供給元としてお願いするという流れを考えています。

（佐藤あい　委員）

では、今年度中には動き出せるような流れでしょうか。

（Adachi Plastic Upcycle　長谷川氏）

今年度中には、プロダクトデザインを金型と一緒に作っていって、卸す先も決まりつつあるので、そちらが動いていけば委託の方も進むかと思います。

（佐藤あい　委員）

ありがとうございます。

（倉阪秀史　会長）

他にある方はいますか。

竹内委員お願いします。

（竹内彩乃　委員）

ありがとうございました。

色々と広がりが出てきているかと思いますが、活動に新しく関わる方々は、どのようなきっかけで入ってこられたのでしょうか。

今回のプロジェクトでイベントを実

施した結果、関わられた方なのかをお伺いしたいです。

（Adachi Plastic Upcycle　長谷川氏）

はい。もちろんイベントに出展をすることで興味を持っていただき、一緒にやっていきたいという方もいらっしゃいますし、カフェに粉砕機や押出成型機を常設しているので、そちらで興味を持っていただく方もいます。

会話の中で新しいアイディアをいただくこともあり、そういったところから広がりを見せています。

（竹内彩乃　委員）

ありがとうございます。

（倉阪秀史　会長）

よろしいでしょうか。

具体的な広がりを見せていて、支援してよかったなというプロジェクトかと思います。

引き続き頑張っていただければと思います。

それでは以上で Adachi Plastic Upcycle の報告を終了します。

ありがとうございました。

（Adachi Plastic Upcycle　長谷川氏）

ありがとうございました。

＜報告者退出＞

＜報告者入室＞

（倉阪秀史　会長）

それでは、続いてアサヒユウアス株式会社の報告です。

７分間で報告いただきます。終了１分前と終了のタイミングで事務局よりアナウンスいたします。

よろしくお願いします。

（アサヒユウアス株式会社　堀江氏）

アサヒユウアスと申します。よろしくお願いします。

昨年から開始いたしました、あだちCoffeeloopプロジェクトについてご報告させていただきます。

まず活動の概要です。

足立区内のコーヒーかすを、バイオマスプラスチックにアップサイクルさせ、循環させるプラットフォームを、あだちCoffeeloopという形で取り組みました。

足立区内のカフェや企業から抽出されるコーヒーかすを、福祉作業所と連携して回収し、最先端の技術で原料化したものを、コーヒーカップやマイボトルといった日用品にアップサイクルして、地域に戻していく、循環させていくプロジェクトです。

活動の目的です。

現在、ごみとして捨てられてしまうコーヒーかすを、資源として再利用していくことで、焼却する廃棄物を削減していくこと。

コーヒーかすの回収活動を、足立区内の福祉作業所と委託連携をさせていただいて、地域との関わりを感じられる機会を創出していくこと。

アップサイクルしたカップやマイボトルを、足立区内のカフェや企業で活用していただくことによって、元々使用していた使い捨てのプラスチックや、紙コップを削減していこうという狙いがあります。

また、足立区内におけるマイボトルの普及啓発を行い、ＳＤＧｓの意識醸成を図っていこうというところを目的として活動いたしました。

続いて活動スケジュールです。

昨年の９月から開始しまして、まずオリジナル商品の設計開発から行い、１２月にかけて商品の製造をしました。

合わせて福祉作業所の募集選定を行い、１１月くらいからコーヒーかすの回収を開始しました。

同時に、このプロジェクトをカフェや企業にご紹介させていただき、ご協力いただけるお店を募りました。

また、啓発セミナーについても２月に実施させていただきました。

活動報告です。

区内の６つの小中学校に出前授業にいきまして、プロジェクトの紹介を行いました。計１，２００名の生徒さんに啓発をさせていただきました。

次に、区内のカフェや企業に導入というところで、現時点では１１のカフェや企業にプロジェクトにご参加いただいております。

先ほどの八重洲コーヒーさんにもご協力いただいておりまして、協創させていただいております。

ご覧の写真のように店舗でマイボトルを販売していただいております。

続いて、かすの回収量についてですが、現時点では月に約３０kg回収し、アップサイクルしております。

同時に、福祉作業所に乾燥機を置かせていただいて、乾燥したものを我々の工場までお送りいただくというところまでを委託させていただいております。

現在は月１回の回収から乾燥までの工程について、約１３，０００円を委託工賃としてお支払いしており、福祉作業所の方も非常に前向きに取り組んでいただけるというところで伺っております。

続いて、親子参加型の啓発セミナーです。

今年の２月２２日に開催いたしました。一般社団法人ごみプロジェクト様にご協力をお願いし、若年層の方を中心に環境意識を高めていくことを目的として開催しました。開催した場所は、東京電機大学の創業支援施設「かけはし」で実施し、大学様からの呼びかけもあり、１日１００組の親子にご参加いただきました。

最後に今後の活動です。

一つ目はこのプロジェクトをもっと広げていきたいと考えておりますので、今後も我々が自立して、さらに発展させていきたいと考えております。

目標は１年１０企業にご参加いただきたいと考えております。

また、東京電機大学様とのイベントや企画等もありますので、そちらでもPR活動をやっていきたいと思います。

区内だけではなく、さらに周知を広げるため、我々のホームページでも状況を報告していきたいと考えております。

以上です。

ありがとうございました。

（倉阪秀史　会長）

ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告について、ご意見、ご質問などがございましたら挙手をお願いします。

浅賀委員お願いします。

（浅賀智成　委員）

貴重なお話をいただきありがとうございました。

質問としては、一つのボトルに対してどのくらいの量のかすを使用するのかということと、それに係る費用はどのくらいのものなのかということを教えていただきたいです。

（アサヒユウアス株式会社　堀江氏）

はい。このマイボトルが６５ｇくらいあり、この中に３０ｇ～３３ｇほどコーヒーかすが含まれています。

（浅賀智成　委員）

これはコーヒーかすだけで作られたものですか？

（アサヒユウアス株式会社　堀江氏）

いえ、コーヒーかすとリサイクルプラスチックを混ぜて成型しており、コーヒーの香りも残っております。

続いて費用についてですが、価格としては６００円で販売させていただいておりまして、原価としては半分くらいとお考えいただければと思います。

（浅賀智成　委員）

継続的に運用していけるということですね。

（アサヒユウアス株式会社　堀江氏）

はい。これからも我々が継続させていただきます。

（倉阪秀史　会長）

ありがとうございました。

他にある方はいますか？

では、本間委員お願いします。

（本間達彦　委員）

ご報告ありがとうございました。

二点ほど質問させていただきますが、月一回の回収ということは、カフェ等で保管しておく必要があるかと思います。その点での課題などあれば教えてください。

もう一点は小中学校で行われた環境学習について、参加者の反応はどのようなものだったかを教えてください。

（アサヒユウアス株式会社　堀江氏）

ありがとうございます。

月一回の回収ですが、濡れているコーヒーかすを一か月置いておくと、やはりカビが生えてしまいますので、今は月に一回、前日分だけを回収し、より鮮度という言い方が正しいかわかりませんが、極力品質のリスクが起こらないような形で実施しています。

（アサヒユウアス株式会社　吉原氏）

二点目のご質問ですが、小中学校での出前授業については、足立区環境学習係から委託を受けて実施しており、そのテーマの１つとして、今回の活動の啓発を入れさせていただきました。

参加していただいたのは４年生以上とその親御さんです。

ご協力いただいているお店は北千住界隈が多いので、具体的にお店をお示しすると、行ったことあるという反応がありました。

学校開放日に実施すると親御さんも多く参加していただけて、非常に関心高く聞いていただけていたかと思います。

（本間達彦　委員）

ありがとうございました。

（倉阪秀史　会長）

他にある方はいますか？

では、工藤委員お願いします。

（工藤てつや　委員）

はい。関連して伺いたいのですが、区内の小中学校での出前授業ということですが、選定されている小中学校６校というのはどのようにお決めになられたか、また、来年度以降、同じ学校でされていくのか、その方向性について伺いたいのと、今タンブラーを見させていただきましたが、こちらの販売状況についてざっくばらんにお伺いさせてください。

（アサヒユウアス株式会社　吉原氏）

はい。ありがとうございます。

今回出前授業で当初からCoffeeloopを実施させていただく予定でしたが、ボトルの出来上がりが遅れてしまって、すでに実施した学校に後からもう一度説明させていただけませんかと依頼し、ご快諾いただいたのが、この６校でした。

本年もすでに７月から始まっていて、当初からCoffeeloopを組み込んだ授業を行っています。

（アサヒユウアス株式会社　堀江氏）

続いて販売状況ですが、ご協力いただいている１１企業様に我々が卸させていただいております。

あるカフェでは、ボトルにコーヒーを入れて、中身とセットで販売されていて大好評いただいたと伺っています。

また、足立の花火をイメージしたボトルを作らせていただいたので、それは地元の皆様から大好評だと伺っていて、もともと５０本くらい販売させていただいたところ、さらに１００本追加した実績もあり、非常に好評をいただいていると考えております。

（工藤てつや　委員）

ちなみにコーヒーを入れたものだといくらくらいで販売されていますか？

（アサヒユウアス株式会社　堀江氏）

そうですね。１，８００円ほどです。今の時期ですと、前日の夜に水出しコーヒーをボトルに仕込んでおくと、翌日販売するのにちょうどよいということをお店の方が発見されました。

イベントでの販売は場所関係なく、よく売れると伺っています。

（倉阪秀史　会長）

ありがとうございます。

具体的な物ができていて、具体的な展開も見られますので、大変いいプロジェクトかなと思います。

引き続き頑張ってください。

それでは以上でアサヒユウアス株式会社の報告を終了します。

ありがとうございました。

（アサヒユウアス株式会社　堀江氏）

ありがとうございました。

＜報告者退出＞

（倉阪秀史　会長）

それでは次第の８、審議の諮問について事務局からお願いします。

（會田康之　環境部長）

はい。それでは私から代読をさせていただき、諮問書をお渡しさせていただきます。

（諮問書　朗読）

よろしくお願いいたします。

（倉阪秀史　会長）

ただいま諮問をいただきましたので、今回は８件の申請について審査をしたいと思います。

この申請の中で利害関係のある方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いします。

（挙手なし）

利害関係者なしと確認しました。

それでは次第の９、評価の考え方と採択の基準について、事務局から説明をお願いします。

（吉尾文彦　環境政策課長）

はい。それでは、評価方法についてご説明いたします。評価の考え方と採択の基準（案）をご覧ください。

申請は、eco U-３０助成とファーストステップ助成に分かれます。eco U-３０助成は特に若者を対象としておりまして、引き続く３年間同じ内容で申請できる部門です。１年目のみ上限が３０万円で、２年目以降は上限２０万円となります。

ファーストステップ助成は、新規または拡充となる活動が対象となる部門で、上限額は２０万円です。

今回は、eco U-３０助成の申請が６件、その内２件が２年目の申請です。ファーストステップ助成は２件申請がございました。

どちらの部門も書類のみでの審査となります。

評価のポイントは記載のとおりですが、項番３「前回からの変更点について」をご覧ください。

ファーストステップやeco U-３０助成は、これまで環境活動にあまり積極的に取り組んでいない団体・個人による「やってみたい」「これから始めたい」という思いを後押しする助成部門と考えております。

区議会からも、より多くの方に活用いただける助成であるべきとのご意見をいただいており、令和７年２月３日開催の本審査会において共有し、今回の審査会からは、共通評価項目から「活動後の広がり」を削除しております。

このため、これまではすべての申請に求めていた波及効果について、SNS 等、裏付けを要しない程度の内容でも評価への影響はなしとしております。

続きまして、評価項目シートをご覧ください。

全７項目を、０から５までの６段階で評価をします。３以上の評価であればその審査項目は基準を満たしていると判断されます。

評価項目の内５項目は共通で、２項目は助成部門ごとに異なります。

評価コメント欄には、活動内容と活動経費の視点から、評価する、あるいは評価しない理由、または疑問点や条件を付けたいことなどのコメントをご入力ください。採択・不採択をご検討いただく際に使用します。

審査は、タブレットから入力を行っていただきます。

次に採択について説明いたします。

集計作業終了後、評価の集計結果とコメントをスクリーン上に公開します。その結果を踏まえ、各申請について１件ずつ協議いただき、採択・不採択を決定していただきます。

採択の目安は、全委員の合計が６割以上、つまり平均が３以上の評価としますが、例えば５割以下の点数を付けた委員がいる場合など、評価にばらつきがある場合は協議のうえ、採択、不採択を決定していただきます。

また、活動の一部のみ認めること、助成金の使途を限定するなどの条件を付けるときは、皆様のコメントなどを考慮して、協議のうえ決定いただきたいと考えております。

書類のみでの審査となり、活動全体の

把握や経費の妥当性等の判断など、難しい点もあるかと思いますが、公費を使っての助成でございます。学識、区議会議員、区民それぞれのお立場や、視点で審査いただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上事務局案について説明いたしました。

（倉阪秀史　会長）

ありがとうございます。

評価にあたっては、０点から５点までの６段階で評価するということでございます。採択の目安としては平均３以上ということになります。

ただ、集計の結果バラつきが生じた場合は、協議の上決めていきたいと思います。

さらに、自由記述欄で活動内容、活動経費についてご意見がある方、採択に付したい条件などがある場合は入力してください。

評価、採択について、ご意見などございますか。

（異議なし）

それでは、評価と採択の基準は、事務局案のとおりで進めさせていただきます。

次に、評価の入力について事務局からお願いします。

（吉尾文彦　環境政策課長）

はい。評価の入力についてご説明いたします。

会場の委員の皆様は評価入力用のタブレットから行っていただきます。

机上に【審査入力用ガイド】を配布しておりますのでご覧いただきながら入力をお願いします。

不明な点などございましたら事務局までお声がけください。

ｅｃｏ　Ｕ‐３０助成とファーストステップ助成の審査フォームをそれぞれ設けておりますので、入力の際はお間違えないようご注意ください。

１件ごとに審議を行ったのち入力を行っていただくお時間を設けております。

ご不明な点等ございましたら、事務局にお声がけください。

事務局からは以上です。

（倉阪秀史　会長）

それでは、次第の１１、eco　U-３０助成の書類審査に移ります。

タブレットでご覧いただく方は申請書フォルダから該当の申請書を開いてください。

事前にいただいていた意見や質問についてはそれぞれの申請書の最後のページに添付しております。

申請は６件ございます。それぞれについて意見交換を行いたいと思います。

【評価については非公開】

（倉阪秀史　会長）

続きまして、ファーストステップ助成の審査です。申請は２件ございます。

それぞれについて意見交換を行いたいと思います。

【評価については非公開】

（倉阪秀史　会長）

それでは、採択・不採択を取りまとめます。

受付番号１・ちょ手間リサイクルラボあやせは採択、受付番号２・あだち気候アクションは不採択、受付番号３・エコで作ろう！未来のアートは採択、受付番号４・食品ロス削減カフェは採択、受付番号５・メイプルシロップを生み出す里山の環境づくりは採択、受付番号６・第

１９回クリスマスフェスタによる環境活動は採択、受付番号７・古革製品の再利用と地域住民への周知活動は採択、受付番号８・花壇整備による緑化と美化活動は採択となります。

委員の皆様、ありがとうございました。これで本日の審査は終了いたします。

審査結果は、事務局を通じて区長に答申いたします。答申書については、時間の都合もありますので、会長に一任いただく形で、よろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは、私の方で答申書を取りまとめます。最後に委員の皆様から何かございますか。

（竹内彩乃　委員）

一点お伺いいたします。今回の申請は結構アップサイクルが多かったと思います。アップサイクルは、エネルギー収支を考えると意外と環境に悪かったりもすると思いますが、その点についてどのように考えていらっしゃるのかお伺いしたいです。プラスαの価値があるもので、そちらを重視していくということであれば、エネルギー収支については考えなくても良いというか、プラスαの影響の方が大きくなるかと思いましたのでお伺いいたします。

（吉尾文彦　環境政策課長）

はい。今回はファーストステップ助成とeco U-３０助成での申請ということで、これから環境活動に取り組んでみようといった方々でした。

事務局としてはそういった方々の後押しをする助成部門として位置付けております。委員のご指摘も非常に理解できるところではございますが、この２部門については、取り組みやすさというところを重視し、一般助成ではもう少し深堀をして考えていただくという形で考えております。

（竹内彩乃　委員）

ありがとうございます。

もう一点ですが、今回福祉との連携が結構多かったと思います。そういった活動に関し、区の中で福祉課等との連携はどのようにされているか伺いたいです。

（吉尾文彦　環境政策課長）

今回事前に事務局としては、福祉ではなく農業の部分と調整させていただきました。

申請内容から、調整が必要な活動についてはさせていただいていますが、ただ基本的に各団体に任せております。

（事務局）

補助金の関係で、環境基金助成に合致するもので、他の助成を使っていただけるようなものがあった場合、そちらを使えないか検討していただいております。

今回でいうと、清掃用具の物品供与を受けられる補助がありますので、清掃用具を必要としている場合には、まずはそちらをご検討いただき、それに加えて環境活動として啓発を行ったりですとか、もっと広めていくという部分に環境基金を使っていただくというところで調整をしています。

また、産業経済部の補助事業とは周知を連携して行っておりますので、ご相談があった場合、相互にご案内ができるようにしております。これによって、重複の防止や、対象になるはずの活動ができなかったということがないよう工夫をしております。

（竹内彩乃　委員）

ありがとうございます。そうした形で繋がっていくのはすごくいいと思いました。

（倉阪秀史　会長）

他はありますでしょうか。

（町田怜子　委員）

足立区の環境基金はホームページで採択された活動について紹介などはされていますか。

（事務局）

過去の事例を一覧にして掲載しております。

（町田怜子　委員）

最近こうした事業が多いですが、活動の報告でいただいている写真を１つサムネイル的に使うだけでも、かなり視覚的にどういった活動かがわかりやすくて、寄附をしてくださった方にもどう使われているか明確性が見えるよう工夫をしていただけると良いと感じました。

（事務局）

はい。ありがとうございます。

（倉阪秀史　会長）

大変いい活動なので、それが知られるように基金自体の広報もしていただければと思います。

それでは次第の１４、事務局から事務連絡をお願いします。

（吉尾文彦　環境政策課長）

長時間にわたり、ご審議いただき、ありがとうございました。事務局からのお知らせです。

次回の環境基金審査会ですが、令和８年度第一期の審査会は３月３０日の午前に開催いたします。詳細は一ヶ月前頃にご案内させていただきます。

事務局からは以上です。

（倉阪秀史　会長）

これをもちまして、環境基金審査会を閉会します。ありがとうございました。

以上

（会議録署名）

足立区環境基金審査会 会議録記録署名員
（令和７年７月３０日 開催）

会　　長	鳥阪 秀史
署名委員	佐々木まさひこ
署名委員	工藤てつや